



関西
歴史文化首都

関西・歴史文化首都フォーラム

2023年2月23日

開催意義と背景

- ★2025年に「**大阪・関西万博**」が開催されます。
- ★先人たちの命の輝きの軌跡と遺産である「**歴史文化**」の**価値を未来につなぐ**ことも、国際博覧会の大切な役割であると考えます。
- ★「**関西万博**」の**ムーブメントを多面的に創り出す**ことが求められています。
- ★イベント学会では「関西」における国宝並びに重文、世界文化遺産と無形文化遺産の高い集積度、さらには博物館や社会教育機関の充実度等において、「**関西**」が日本の「**歴史文化の首都**」であるという事と、それを生かした持続可能な地域づくりの可能性についての研究を進めてきました。
- ★このような背景のもと、「**愛・地球博**」の理念継承団体である一般財団法人地球産業文化研究所（GISPRI）の支援を受けて、イベント学会は、2021年10月末、大阪・関西万博が推進する「**TEAM EXPO2025**」に「**共創パートナー**」として登録。
- ★「**関西**」の持つ、この国の成り立ちの歴史や伝統文化のソフト・パワーの発信を通じて、付加価値の高いコンテンツ産業の応援に取り組むことで、国内や海外からの**万博参加者を関西各地に誘引**し、関西の広報外交と観光産業、教育産業の発展につなげていきたいと考えます。

推進組織

■ 提唱団体 イベント学会

「イベントは新たな時代を創造する」を合言葉にイベントの新たな社会的・文化的価値を探求する『イベントロジー（イベント学）』を追求する団体。

歴代会長：木村 尚三郎（1998年～2002年）

堺屋 太一（2002年～2019年）

現会長：中村 利雄（愛・地球博事務総長）

■ 支援団体 (一財)地球産業文化研究所

「愛・地球博」の理念継承団体。イベント学会と連携、「大阪・関西万博」の共創パートナーとして、「いのちをつなぐ水と流域 地球市民対話プロジェクト」「関西・歴史文化首都フォーラム プロジェクト」「世界自然遺産プロジェクト」の3プロジェクトを「TEAM EXPO共創チャレンジ」として支援。

■ 主催団体 「関西・歴史文化首都フォーラム」推進委員会

座長：福井 昌平（CI戦略プロデューサー／イベント学会副会長）
委員：岩本 渉（アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長）
委員：西村 幸夫（元東大副学長・國學院大学観光まちづくり学部初代学部長）
委員：中澤 静男（奈良教育大学教授 ESD/SDGsセンター長）
委員：本多 俊一（国連環境計画 環境技術センタープログラムオフィサー）
委員：川井 徳子（ソーシャル・サイエンス・ラボ専務理事／イベント学会員）
委員：信時 正人（ヨコハマSDGsデザインセンター長／イベント学会理事）
委員：橋爪 紳也（大阪公立大学特別教授／イベント学会副会長）
事務局長：宮本 倫明（Landa 代表取締役／イベント学会理事・西日本本部長）

○ 滋賀実行委員会

○ 大阪実行委員会

○ 奈良実行委員会

○ 京都実行委員会

○ 兵庫実行委員会

○ 和歌山実行委員会

開催趣旨

関西が歴史・文化の首都（中心地） であることを発信する

- * 関西2府4県がそれぞれの独自の「歴史・文化」を再認識するきっかけを作る。
- * 2025年の「大阪・関西万博」に向けて、関西一円で万博機運を盛り上げる。
- * 「大阪・関西万博」来場者が関西の各府県の魅力を知り、回遊することにつながる。

キーワードと方向性

兵庫県

姫路城世界遺産登録30周年
匠の技に新たな輝きを

京都府

京都未来—カルティベート
新たな1,200年に向けて

滋賀県

“母なる湖”びわ湖の
歴史・文化を再発見

奈良県

無形文化遺産の融合する奈良

大阪府

「古典芸能」「民族芸能」から学ぶ
「芸能と営み」の未来

和歌山県

高野熊野世界遺産登録20周年
「ジオ」から読み解く歴史文化



滋賀県

母なる湖びわ湖の歴史・文化を再発見し、未来に向けての持続可能なアクションを考える。
歴史文化首都を入口にして、出口を**マザーレイクゴールズ**に集約し、地域の魅力再発見、海外からの誘客、そして関西万博へのムーブメント創りに寄与する。

- 時期：2023年11月11日（土）
- 場所：「ビアンカ」（琵琶湖汽船）

兵庫県

ひょうごフィールドパビリオンを軸としたコンセプトとし、**姫路城世界遺産登録30周年**を契機とした意義の最適化・広報の最大化を図る。「関西」が持つ歴史や伝統文化のソフトパワーの発信を通じ、観光産業、教育産業の発展につなげる

- 時期：2023年11月（予定）
- 場所：姫路城周辺

京都府

京都未来—カルティベート（仮）

1200年の歴史を持つ京都が**新たな1200年に向けて**先人たちが育み、守り続けた文化資源を持続可能に活用していくため未来に繋げる『いのち』のレガシー事業として考えたい。

- 時期：2023年秋（10～11月）
- 場所：未定

奈良県

3つの世界遺産に加え「飛鳥・藤原」の登録を進める奈良県。

その有形の世界遺産のみならず、建築・修復や日本の食文化を支えてきた「技」や「多様性」 = 「無形文化遺産の融合する奈良」を舞台とする。

- 時期：2024年春
- 場所：国営平城宮跡歴史公園、なら食と農の魅力創造国際大学等

和歌山県

ジオが育んできた和歌山（南紀・熊野 紀伊半島）
そのうえで展開してきた歴史文化（霊場と参詣道、マ
グロ）
そして、1200年先の世界へ

- 時期：2024年9月末
（高野熊野世界遺産認定20周年との連携）
- 場所：和歌山市内で調整中
（県民文化会館、和歌山城ホール他）

大阪府

歴史と文化を現在、未来に体現するものとしての「古典芸能」「民族芸能」にスポットを当てる。

衣装やその製作技術、楽曲や楽器、メイクやアクセサリーなど、芸能を支える分野に関する考察。

**「古典芸能」「民族芸能」を活用した、新たなエンタ
テイメント創出の可能性**を実践例をもとに探る。

○時期：2024年度（2024年秋頃想定）

○場所：未定（堺市を第一候補として想定）